



## 青木村子どもはつらつネットワーク通信

平成30年度 第161号 2月1日

青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行

# 子育てフォーラム青木2018

昨年 12 月 1 日(土)に行われた子育てフォーラムでの講演会と分科会の様子をお伝えします。



## 講演会 「幸せに生きるために必要なこと～

### 子育ての時間は限られている～」

講師 長岡 秀貴さん

NPO 法人 侍学園スクオーラ・今人理事長

映画『サムライフ』モデル

(紙面が限られているため、特に子育ての参考になる部分を中心に伝えたいと思います。)

侍学園を設立して 15 年になります。皆さん「不登校」や「引きこもり」と検索して僕らのところにアクセスしてきます。この 13 年程は、週末に千葉と沖縄の小児科でも仕事をさせていただいています。昨日は千葉で 23 ケース、46 人の方と話をしてきました。でもこのように何らかの形で僕らのところにたどり着ける人はまだいいのです。現実には、たどり着けない孤立した人がたくさんいます。そういった人達を何とか救えないか。自分の子育てに疑問を持たない親達、その陰で犠牲になっている子ども達。映画『サムライフ』は 15 年も前のことを描いていて本当に恥ずかしいのですが、この映画が少しでも社会に参加できない人達のところに届けばと思っています。

昔の日本は子育て優秀国でした。昔の海外では、躰の為に子どもに鞭打つことは当たり前でしたが、



日本では子どもは宝として大切に育てられてきました。家族や地域に人を育てる文化がきちんと継承されていました。現在の母親は孤立しています。一人で何でもかんでもやらなくてはなりません。それに伴い、親自身が子どもにとって直接的な恐怖になってきています。親は子どもを叱ることはあっても子どもの恐怖になってはいけません。「親に捨てられるかもしれない」「親に失望されるかもしれない」はだめです。

私は昔の民話を復活させたいと思っています。鬼やおばけです。良いことをすると良いことがあるよ、悪いことをすると悪いことがあるよ。鬼が怖いと言って子どもが親にしがみつく。こういう話がなくなってきたから、お母さんが家庭で頑張らざるを得なくなってきたとも感じています。うちでは、宮古島の「パーントゥ」(泥神)をYouTubeで子どもに見せたり、僕がサンタクロースに扮し(僕のサンタクロースはガチで怖い)サンタクロースとの約束は絶対に守らせたり、という方法で子育てをしてきました。

現在、不登校者数は13万人と言われていています(保健室登校や週に一回程度休む子は含まない)。そのまま支援を受けられずうまく社会に出ていかねなければ、彼らは無業になってしまいます。6か月以上家族以外との交流がなく、生活の拠点が家庭内のみの人を「引きこもり」と言います。でも家族とコミュニケーションが取れている引きこもりはまだいいです。自分の部屋に籠って出てこないという場合はさらに大変です。生きていくために自室に引き込まざるを得ないのですが、一番長い子で20年引きこもっている子がいました。7年通い続けてようやく会え、部屋から出すのに2年かかりました。

不登校や無業状態は疾患ではありません。二次的に疾患になる人もいますが、引きこもりは状態であって誰にでもあり得ることなのです。

学校がすべてだと思っていて、学校に行けなくなったことで人生はもう終わりだと考えている親や子どもが多い。人生80年として、そのうちの学齢期はほんのわずかです。「学校へは行かなくてもいいから、人生はあきらめるな」と彼らには伝えています。「学校でいじめている友達は一生涯の友達ではないし、その友達がお前の卒業後の人生に何らかの利益をもたらすとは絶対に思えない。違う考え方をしてみようよ」と言うと、泣きながら「よかった」と言うのです。義務教育の義務は、子どもが学校へ通う義務ではありません。子どもが教育を受ける権利を保障する義務を、地方自治体と保護者が負っているということなのです。

貧困には、経済的貧困、社会的貧困、文化的貧困があります。経済的貧困は字のごとく。社会的貧困は、親戚がいない、相談する人がいない、頼る人がいないという状況。この2点に関して私達はアセスメントすることができます。しかし文化的貧困に対してはものすごく大変です。家族の中にずっと引き継がれてきている文化、それが世の中から見るととてもずれているのに家族の誰も気が付かないという状況です。私達が支援する時は、人を疑わず、その人の思考や習慣を疑い、そこにアプローチしていくようにしています。そこを改善していけばまだ間に合うよ、と伝えています。

「生きる力」とは何か。すごく単純なことです。今日から明日へと自分の命をつないでいくこと、そしてそれを自分の力ですることです。

「人が生きていくために必要なことは何か」と子ども達に問うと、「やりがい」とか「親友」とかが出てきます。「食べていく」「住居の保障」「安心、安全」という言葉はまず出てきません。精神的なレベルの話ばかり



りです。でもまず、お腹いっぱい食べられるにはどうしたらいいか、というところに立ち返らせるのが僕らの授業です。

自己実現欲求にいく前に段階を踏んでいかなければいけません。いきなり自己実現だけ求めようとするからうまくいかなくなるのです。その下から積み上げていって、他人に自分を評価してもらいたい、認めてもらいたいという欲求が生まれ、初めて「〇〇したい」という段階にいくのです。「〇〇したくない」という思考から「〇〇したい」という思考に変えていかなければいけません。

待学園に入学したら寮に入ります。そこで「衣・食・住」「自分・他人・社会」「人生を豊かにするための遊び」について学んでいきます。特に衣食住に関しては、社会参加意識を醸成するためにとても重要な部分です。

まず、外見的な排除を軽減するための手助けをしてあげます。風呂に入らないような子は風呂に入れます。服のコーディネートをし、美容師さんに来てもらって髪のスタイリングやお化粧品もしてもらいます。マナーやエチケットに関しても男女に分かれて徹底的に教えます。ムダ毛の処理とか、体臭とか、洗濯物から生乾きの匂いがしないようにとか。そこまではするのかと思われるかもしれませんが、社会に出て人から言われて本人が傷つくことのないよう、他人から攻撃されるであろう種はすべて摘んでおきます。

食事は必ず自分達で作ります。家では、出てきた食事をいただきますも言わず、おいしいとも言わず、当たり前で食べてきた子ども達ばかりです。食事を提供する側にまわらせ大変さを実感させます。農業も体験させます。



暮らしていくためのコストや金銭感覚もつけさせます。今、子どもを育てるにはとにかく進学させることがいい、そのために借金してでも行かせなければ、というような風潮になっています。その子にとって進学は本当に必要なのかを家族でしっかり話し合っているのでしょうか。議論をせず、すぐにお金を用意していないのでしょうか。昨年、長野県で奨学金が返せず自己破産した家庭は1300件にのぼります。良く考えて、本当に進学したいのならしっかり勉強して特待生になるとか、働きながら学ぶとか、本来はそうすべきなのではないかと思っています。

寮を出たら必ず一人暮らしをさせ、光熱費は自分で払わせます。電気や水道が普通に使える、夏は涼しく冬は暖かく過ごせる環境にはお金がかかる、という実感を持たせます。それが持てれば就労意識が消えるということはまずありません。働くことに疑問を持つということはありません。生きていくことがつらいと思うことも無くなります。生きていくことは大変で簡単なことではありません。でも自分で動いて作りだすものだということが実感できるようになります。



手前味噌ですが、うちの卒業式は日本一です。一回生きることを諦めた人間が、両親に対してもう一度「生きる」を宣言するのです。「親には一度悲しい思いをさせたけど、私はここからちゃんと生きていきます」を宣言する会なのです。

羞恥心の欠如は大きな問題です。羞恥心の欠如は家庭から生まれてくると思っています。母親との関わりから私たちが受ける大きなものは、「愛を育む」とか「母性」です。それに対し父親から私たちが受ける主なものは「社会性」です。今までの経験から、母親への依存度が高く、父親との関係が希薄な場合、子どもに羞恥心の欠如が起こりやすいです。母親の過干渉と父親の無関心で羞恥心が欠如し、社会参加不全につながりやすいと感じています。

過去の原因にしがみつくと思考が思考を止めていきます。ご家庭でお子さんと話をする時も、絶対に過去の原因に言及しないことが大切です。子どもの頭の中に思考の習慣を作ってしまう。過去の原因にしがみつくと、そのコミュニティでうまくいかない原因にもなってしまいます。「あの時はああだったじゃないか」から「どうやってうまくやろうか」という会話に変えていかなければいけません。保護者からたくさんの相談は受けますが、過去の相談はしません。過去は変えられないからです。するのはこれからについての相談です。

よく「私が過保護にしたからこうなったのでしょうか」と言う親がいますが、過保護で子どもの心が壊れた、というのは見たことがありません。過保護によって甘えた人間になるかもしれませんが、社会に迷惑をかけることはありません。問題なのは過干渉です。「ああしなさい」「こうしなさい」は子どもの心を歪ませます。そして歪んだ心を矯正する時期が必ず来ます。自我の形成が終わり自分の意見がまとまった瞬間に、反旗を翻して反撃が始まります。

親子の絆を結び直す方法として、**You メッセージ**から**I メッセージ**に変えてください、とお父さんやお母さんをお願いしています。皆さんはお子さんが 100 点のテストを持ち帰ったらなんと声をかけますか？「良く頑張ったね」と言う方が多いと思いますが、これは **You メッセージ**です。子どもはいつもお父さんやお母さんの中に自分がいるかどうかの確認をしたいと思っています。だから「お母さん、めっちゃうれしい」「お母さん、こんなにすごい点数を取れるとは思っていなかった」等、とってください。子どもは親の中に自分がいると感ずることが出来ます。



僕達の活動自体がなくなるような世の中になればいいと思っています。僕は今まで 11 の命を自死で失っています。飛び降りたある女の子は僕の腕の中で「生きたい」と言って息を引き取りました。今も 1 日に 90 人近くが自らの命を絶っています。そんな人達をどうしたら救えるか。先程小児科で活動をしているとお話しましたが、病院よりももっと気軽に行かれるところと連携できないかと考え、4 年前から理美容師の仲間と活動を始めています。理美容師さんが僕達のメソッドを持っていたら最強です。「ライフ・サジェスト・スタイリスト」という仕事を作っておこう。これは人生の控えめな提案をする仕事です。現在、「LSS」のマークが貼られているところには相談できるスタイリストがいます。



もし周りに苦しんでいる人がいたら、もし心配なお母さんがいたら侍学園の存在を教えてください。そして僕達に繋げてください。この活動へのご支援とご協力もお願いします。つたない僕の書籍もその売り上げは全額寄付になります。侍学園の会員になるという方法もあります。是非宜しくお願い致します。



## 第1分科会

# 「こんな時、どうしたらいいですか？ ～先輩ママさん助けてください！～」

(保小連携委員会)

### 今年度活動経過報告

- ① 音楽会〈練習日・当日の子ども達の様子〉 ② 運動会 ③ ハロウィン

### 今後の予定について

- ① 焼き芋会〈日程が合わないため中止〉 ② 児童会まつり参加予定〈年長〉

### 各行事についての意見・要望・不安なこと・感想

#### ■ 音楽会

- ・ 購入用サンプルの写真の貼り出し希望
- ・ 落ち着いて参加することができた
- ・ 練習が重なってしまい遊ぶ時間が少ないとぼやいていたことがあった
- ・ 実際に小学校へ行き体験できたので期待が持てた
- ・ 「上手だったよ」と声を掛けていただき、自信につながったと思う
- ・ 1年生も年長さんが来るのを楽しみにしていた
- ・ 年長はとても静かに聴けてよかった
- ・ 願い・取組みの様子など配布してもらったが、その場でアナウンスしてもらえると、なお良い
- ・ 事前の招待状で交流ができ、なおかつ期待も持てた

#### ■ 運動会

- ・ 練習中、1年生と年長の交流の時間が取れると良い
- ・ 事前練習を数回行ったほうが良いのでは？
- ・ 1日は少しきついのではないかと（AMだけの地域もある）
- ・ スムーズに参加できてよかった
- ・ ロープが危険だった（あれは必要なのか）
- ・ 紅白に分かれて競うことは大事。続けてほしい
- ・ 実際に行って体験できることは就学への意欲に繋がっていく
- ・ 事前練習があったので不安もなく参加することができた



#### ■ ハロウィン

- ・ 毎年の恒例行事にするのであればあらかじめ保小の日程を調整しておき10月中にできるとよい

- ・ 各場所をまわってお菓子をもらい、とても嬉しそうだった
- ・ 手作り衣装がとってもお気に入り喜んで着ていた
- ・ 衣装作りから1年生と交流することができ、就学への期待が高まった
- ・ 時期が遅かったので気持ち的にもどうなのか
- ・ あいにくの雨で1年生と手を繋いでの参加は出来ませんでした、一緒に作れたことはとても喜んでいて「〇〇くんと作った！」と一人ひとりがいい経験になったのではないかと思います
- ・ 本人がとても楽しそうでした。お菓子を妹と仲良く分けていました
- ・ 1年生が大人になったように感じた。とてもいい活動なので来年度も続けていきたい
- ・ 家でも衣装を作り楽しかった話をしてくれた。地域の方々との交流も出来て良い
- ・ 村をあげて楽しめると良いと思います

## ■ 学校行事・園行事について

- ・ 青木村保育園でとても多くのことを行なっていただいているので、小学校の活動の見通しを持って参加できることが多く、とても助かる
- ・ 入学前にこれだけ連携し、準備できるのは青木村だけではないでしょうか。これから入学する喜びと迎える喜びがあってとても素晴らしいと思います
- ・ 青木村の子ども達には縦のつながりがとてもあっていいと思います。それはこういった取り組みがあるからですね
- ・ 能楽がとてもよかったです
- ・ 学校、園行事、各々予定もあるため、初めに見通しを持ち確認しながら計画をすることが大切だと思った
- ・ 同一年行事のお知らせプリントが複数配布されると把握しにくいこともあります
- ・ 中学校へも散歩の途中で寄ってみるとか（特に行事にしないでも）やったらどうでしょうか
- ・ 子ども達の行事の様子をもっと発信〈村民の方々に知ってもらう〉できる場（広報など）があるといいと思います
- ・ お兄さんやお姉さんと遊ぶのが好きなので、様々な学年で交流する機会があれば子どもも喜ぶと思います
- ・ 村営プールで一緒に水遊びはできないかなと思います



## 第2分科会

## 「英語でつながる小中学生」

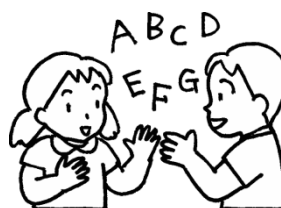
(小中連携委員会)

### 1 小中学校で取り組みを紹介

○小学校外国語で行われている活動の一部を体験しました。

#### (1) スリーヒントクイズ

英単語3つのヒントから、答えを連想します。



和やかに楽しくできました。

(2) 過去形の学習（修学旅行を題材に）

I went to Tokyo. → 東京に行った

I ate Tokyo banana. → 東京バナナを食べた

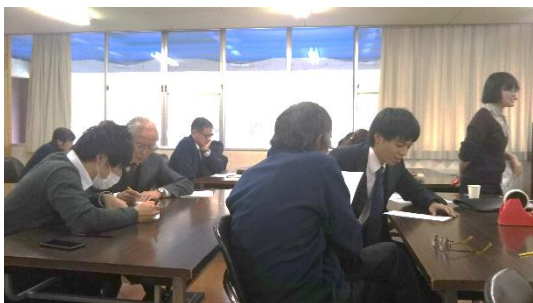
I enjoyed a jet coaster. → ジェットコースターは楽しかった。



などの例文を示して、過去形表現の仕方を確認しました。そして、その後、夏休みの出来事を簡単な英文で書きました。（普通の授業では、その内容を互いにインタビューしあうゲームへと授業は進んでいくそうです。）

○中学校外国語で行われている活動の一部を体験しました。

(1) 映像を見ながら、過去形表現の規則動詞・不規則動詞に気づかせていきます。



I walked ~ I talked ~ I changed ~

I liked ~ I visited ~

~ed でない動詞もある。

have → had eat → ate

swim → swam

学習カードを使って、30秒で不規則動詞をどこまで言えるかをゲーム形式で行いました。

授業を体験して

\*小学校・中学校とも、英語で授業を進めていました。（日本語は、あまり聞かれませんでした。）

\*小学校・中学校とも、コミュニケーションをとる喜びを大切に授業をしています。

## 2 小6・中1のアンケート結果から

(1) 小6アンケート結果 → 7割の児童が、学習に前向きである。

→ 3割の児童が不安を抱えている。

背景 中学校の授業の様子がわからない。

(2) 中1アンケート結果 → 英語好き・勉強が楽しい・・・小学校より増える。

不安な気持ちはあるが、あまり心配しなくても良いのではないかと考えられる。

→中学校説明会や体験授業・校長講話などの場面を通して、不安を軽減していきたい。



第3分科会

## 「青木村の教育相談を上手に利用し、 安心して子育てをしよう」

（特別支援教育委員会）

「青木村の教育相談体系について知ろう」ということで、育ちの時期に応じた各機関から、こういうことをやっています！というお話をお聞きしました。



0から3歳（保健師 平川さん）

母子手帳を交付する段階から、保護者の方と関わり、サポートしていく体制があります。乳幼児健診、カンガルー教室、わくわく広場など、お家の方が悩みや気づきを相談しやすい場があり、早期支援を大切にしています。

### 保育園

保育園での支援について説明いただきました。お子さんの困り感に寄り添った丁寧な支援、外部支援機関との連携、植田先生の巡回相談、移行支援についてのお話がありました。

### 小学校

小学校での特別支援教育は、支援級だけではなく、通常学級でのインクルーシブ教育が行われています。その都度教育相談、支援会議を開き、学校・家庭・本人と支援の方向を確認し、その子が一番力を発揮できる学習の環境、方法で学習を進めています。

### 中学校

中学校では支援級が2クラスある他、教科に応じて一緒に学習する場もあります。一番の大きな選択は進路です。中学入学までの間に、自分のことは自分でできる力、家庭学習の習慣など、基礎的な生活力をつけておくことが大切です。

### 教育委員会（沓掛教育長）

植田スクールカウンセラーを中心にした連携体制の充実、保小中の実践と連携、支援会議や奥田健次氏への相談依頼など、支援を求めている一人ひとりに対応しています。

### 村役場 福祉課

（上原さん）

青木村の福祉サービスについて、ケア会議、サービスの種類、その他手続きなどのお話をさせていただきました。

どの機関からも、早期支援の大切さのお話がありました。

発達に応じた支援を早期に行うことで、お子さん自身の困り感を少なくすることができます。

少しでも気になることがありましたら、お近くの相談機関に、ぜひ、お気軽にご相談ください。一緒によりよい手立てを考えていきましょう。



## 編集後記

2か月にわたり子育てフォーラムの内容をお伝えしました。講演会では、幸せに生きるために必要なヒントをたくさん教えて頂きました。保護者の方からは、「誰でも入りやすい雰囲気、参加して良かったです。」「もっとたくさんの人達とフォーラムの素晴らしさを共有したい！と思いました。」などの好意的なご意見を頂きました。